

わゆうけな

98号  
No.1098

2012(平成24)年  
4月1日

生きて  
よがされた  
あなたに  
がんばった  
あなたから  
あつま



相田みつを美術館  
オリジナルカレンダーより頂きました



発行者:高槻市氷室町2-19-30  
浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話 (072) 696-0666  
FAX (072) 692-0769

# 親鸞聖人七五〇回大遠忌法要御正当



昨年四月九日から始まりました親鸞聖人七五〇回大遠忌法要は、

今年一月十六日にご満座を迎えて六十五日間百十五座にわたる

大遠忌法要はここにぎりぎり修了いたしました。

ご門主と新門さまは、一月十五日の逮夜（午後）法要（大逮夜）のちに、「お言葉」を述べられました。ご門主さまの「お言葉」を紹介します。

## 皆

さま、ようこそご参拝になりました。

昨年の大震災後、一ヶ月経たない四月九日から始まりました親鸞聖人の七五〇回大遠忌法要は、本日、大逮夜（最後の午後の法要）をおつとめすることができました。

本日まで多くの方にご参拝いただき、五〇

年に一度のご勝縁を共にすることができましたこと、まことにありがたく存じます。東日本大震災をはじめとする天災地変や放射能汚染で被災された方々、社会の情勢や個人的な事情で困難を抱えている方々が少くない世の中です。大遠忌にご参拝になれなかつた方々のことを思いつつ、これから日々を過ごしたいと思います。

おつとめすることができました。

何が起ころうかわからぬ人生。無知と欲

望に引きずられている私。過ぎ去つたことは

先ほど、お正信偈の前にお唱えしました

のは、親鸞聖人の主著『教行信証』最初の部分、「総序」です。「ひそかにおもんみれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無礙の光明は無明の闇を破する恵日なり」という

お言葉から始まっています。意訳します

と、「私なりに考えてみると、凡夫にははかりがたい阿弥陀如来のご本願は、渡ることの難しい迷いの海を渡してくださる大きな船であり、何ものにもさまたげられないその光明は、煩惱の闇を破つてくださる智慧の輝きである」となります。

親鸞聖人がご往生されて七五〇年。聖人七五〇回法要を勤められた感動と、これから私たちが、聖人のみ教えをいただいた念仏者としての歩む道をお示しください。

取り返しがつかない世の中。どれも渡りにくい荒海に警えられます。難しい修行をしなくても、人生そのものが難問、難題の連続です。でも、阿弥陀如来は南無阿弥陀仏となつて私を支え、さとりへと導いてくださいます。

ご本願を信じる者、南無阿弥陀仏をいただく者にとって、この世は往生浄土への船の旅です。船は大勢が乗れる大きな乗り物を意味します。私が救われる教えは、誰でもが救われる教えです。共に手を取り、支え合つて人生の旅を続けたいと思います。そして、今生きているあらゆるいのち、後々の世代も心豊かに生きされることを願わずにはおれません。

親鸞聖人のおこころ、七五〇年にわたりみ教えを伝え、宗門を受け継いでくださつた先人の方々の願いをしつかりと受けとめ、お念佛申して精いっぱい過ごさせていただきましょう。



1月13日仏婦でご正当法要お参りされました



2月24日仏婦常例法座

12月31日除夜の鐘  
たくさんの方にお参りいただきました。

お話を、音楽ありの楽しい一時を送つて頂きたいと存じます。皆さま、どうぞお時間を割いて、ご参加下さいますよう、心よりお待ちしております。

★兵庫県たつの市、淨泉寺ご住職。  
ギター法話 シンガーソングボンサン  
講師 小泉信了 先生

◎六月二十四日(日) 午後二時より

場所 萬徳寺 本堂

## 人生講座ご案内

年行司(総代仏壯)の方々によりますお志の受付は、午後一時十五分(二日目)よりしていただきます。お参りの方々、よろしくお願いいたします。

★利井先生、高槻市東五百住町、常見寺ご住職です。お寺の学校であります、学校法人 行信教校校長。萬徳寺法座には、初めてのご縁をいただきました。み教えを、やさしくていねいに説いていただきます。

◎四月十四日(土)  
午後二時(仏説無量寿經)  
法話 本願寺布教使 利井 唯明 先生

◎四月十五日(日)  
午後二時(仏説無量寿經)  
法話 本願寺布教使 利井 唯明 先生

◎四月八日(日)  
場所 萬徳寺

◎四月八日(日)  
場所 萬徳寺

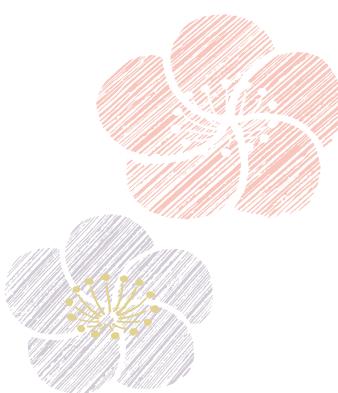
〈今月のことば〉  
三月十一日は、東日本大震災の犠牲になられた方々の一周年忌です。私たちは、残された方々の悲しみに寄り添つていきたいと思います。

花まつり

お願ひです  
あなたの心だけは  
流れされないで  
不幸の津波には  
負けないで

被災地のあなたに  
最愛の人を失い  
大切なものを流され  
あなたの悲しみは  
計り知れません  
でも 生きていれば  
きっと いい事はあります

※百歳の詩人 柴田トヨさんの詩を頂戴いたしました。



## 住職のひとり言



◆八〇〇回忌に向けての第一歩の永代経法座。どうぞ、ご聴聞させていただきましょう。尊いご縁をいただいて、ご参詣くださいますよう。

個人情報により非表示にさせていただきます。

◆昨年の三月十一日に起こりました未曾有の東日本大震災より一年がたちました。多くの方が津波の犠牲となり、未だ不明者も多く、残された方々の悲しみ、苦しみは消えません。一年たつた今も先の見えない被災地、原発の状況です。アメリカの百四基、フランスの五十九基に次ぐ五十四基、世界で三番目に多くの原発を持っている日本です。地震の少ないアメリカ、フランスでもないのです。有数の地震国で、しかも津波の危険のある海端に五十四基。今度の地震と、事故が起きるまで、私たちほとんど気にすることもなかつた。まあ、どうにかなるだらうと。この私たちの無関心さも含めて人災です。

◆四月、さあ永代経の季節となりました。親鸞聖人七五〇回大遠忌法要も、一月十六日のお日中法要(ご満座)をもつて修了いたしました。十六日法要での布教使の先生のお話に「皆さま、私たちは先にお淨土に還つておられる親鸞聖人にお遇いさせていただくのですよ。どうぞ、念佛者として、人生を明るく送らせていただきましょう。」と、ありました。親鸞聖人のお手紙にも「淨土にて・かならず・かならず・まちまいらせ・そ•う•ろ•う•べ•し」と、言つていただいています。聖人は、私たちを待つていただいておるんですよ。

昨年の八月以降、頂いた東日本大震災の義援金三万六千、五百八十円を本山を通じて被災地復興支援に活用させて頂きます。  
暖かいご支援誠に有り難うございました。